

第11回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨

【会議概要】

日 時	令和5年2月24日（金）14:00～17:05 （14:00～15:45 現地視察／16:00～17:05 会議）
場 所	利根大堰上流左岸・下流左岸／(独)水資源機構 利根導水総合事業所 説明ホール
議 題	1 開会 2 現地視察 3 利根大堰周辺における現況報告及び今後について （1）現地確認会での確認事項について （2）令和4年度の利根大堰上下流の調査結果（中間）と経年状況について （3）利根大堰の耐震化工事に係る水鳥調査結果について （4）XXXXXXXXXX調査について 4 閉会
配布資料	・ 議事次第 ・ 配席図 ・ 参加者名簿 ・ 現地視察資料 ・ 資料1 「利根大堰周辺の治水と環境検討会現地確認会」実施概要および意見要旨 ・ 資料2 令和4年度の利根大堰上下流の調査結果（中間）と経年状況について ・ 資料3 利根大堰の耐震化工事及び鳥類調査等について ・ 資料4 XXXXXXXXXX調査について ・ 参考資料1 自然環境モニタリング調査結果（中間報告） ・ 参考資料2 利根大堰の耐震化工事に係る鳥類調査関連データ ・ 別添資料 設立趣意書・規約・名簿
出席者	（団体） ・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長 ・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表 ・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表 ・ 島田 勉：行田ナチュラリストネットワーク 研究部長 ・ 須永 伊知郎：公益財団法人 日本生態系協会 理事（※コーディネーター） （行政・関係機関） ・ 明和町 都市建設課 篠木加仁課長 ・ 明和町 産業環境課 代理：牛久保正和課長補佐 ・ 行田市 道路治水課 代理：木元稜明主任（会議のみ） ・ 行田市 環境課 代理：小出聖主任 ・ 千代田町 建設環境課 代理：田中将貴主事 ・ (独) 水資源機構 利根導水総合事業所 齋藤副所長（会議のみ）、工藤副所長、坂森課長（会議のみ）、三浦課長、原氏（会議のみ） ・ 利根川上流河川事務所 津森所長、佐々木課長（学識者） ・ 浅枝隆：埼玉大学大学院理工学研究科 名誉教授（事務局） ・ 利根川上流河川事務所 調査課・真崎係長

【現場視察の様子】

①掘削完了エリア（だるま池・掘削水路） <利根大堰・下流域ゾーン>



春期調査（5月）から秋期調査（10月）までの間は樹林際まで水域が広がる「だるま池」も、今冬はかろうじて水域を残すまで水位が低下し、「掘削水路」も夏期や降雨直後は湛水があるものの水深は浅く、当日は干上がっていた。

②たまり池 <利根大堰・中流域ゾーン>



春期調査（5月）から秋期調査（10月）までの間は湛水域となっているのが確認されているが、当日は完全に乾いており、地下水位の低下だけでなく、土砂堆積による影響なども示唆された。

③堰直下付近 <利根大堰・上流域ゾーン>



堰直下の水域を視察。堰の当該箇所の耐震化工事は終了しており以前の状況に戻ったものの、土砂堆積の進行による湛水域減少が指摘された。

【会議の様子】



現地視察を踏まえ、室内で今後の対策に向けた意見交換が行われた。

※以下の文書について、公開時には個人名を廃し、各々（団体）・（行政）・（学識者）等と改めます。

【現地視察内容】（敬称略）

①掘削完了エリア（だるま池・掘削水路）

【利根大堰・下流域ゾーン】

- ・ 雨が何日くらい降らないと水が枯れるのか。今は雨が不安定で昔のように決まった時期に雨が降らない。水田と河川敷と利根川とが地下水でつながっていて、堤外と堤内の地下水の勾配がどの位あるかを調べる必要がある。田んぼの水面の高さ、表流水の水位がどうなっているかを調べないと、いつどうなるか、どういう条件だと水がなくなるのかを推測できないのでないか。（学識者）
- ・ 水位の推移を見ながら意識し、何らかの知見が得られたら皆さんにもお知らせするようにしたい。（事務局）
- ・ ヨシやオギは蒸散量が大きいので、これらの植生が繁茂するとさらに水位が下がる。（学識者）

②たまり池

【利根大堰・中流域ゾーン】

- ・ 堤から河川に向かって地下水がある間に数mの溝（たまり池）があるだけであり、数年たったら土砂で埋まる。上流に水を貯めないと、ここには水が湧かない。溝状になっているところは、両側に植物があると流速が遅くなり土砂が溜まりやすい。もっと湿地という感じにする必要がある。ヤナギは氾濫湿地には生えているもので気にしないでいい。むしろ、オギ・ブタクサなどが問題。（学識者）
- ・ この場所は、何十年も前から見ているが、窪みが以前からあって湧き水が水源となっていた。[redacted]の他にも、冷水性のトンボ類も見られ、土取後に今のように水が枯れるようになった。もっと上流側を大きく掘ったらどうか。（団体）
- ・ たまり池は、この検討会当初から課題となっている環境で、大堰建設後の空中写真や地形図の分析で[redacted]さんが言うように、何十年にもわたって窪みの地形が埋まらず維持されている。流路跡ではないようだが、この窪みが何に由来して形成されているのかは不明。（コーディネーター）
- ・ （堤内地の）農家で冬みず田んぼをやってくれと、地下水位が高くなり良い。コウノトリ・トキのためにやりましょうと呼びかけることはできないか。（学識者）

③堰直下

【利根大堰・上流域ゾーン】

- ・ 工事前は、もう少し下流側まで水面が広がっていた。[redacted]も生えていたので工事に際して自宅に避難させているが、今の状態だとだいぶ水域の環境が変わり、戻すことが出来ない。（団体）

- ・洪水ではない時に、ゲートを開けられないか。(学識者)
- ・堰の直下より池のような環境が広がっていたが、かなり土砂堆積が進んだように思う。毎回言っていることだが、ゲート操作で対策できないか。(団体)
- ・操作ルール上できない。(水資源機構・三浦課長)
- ・ここは常に土がたまる場所。左岸側でフラッシュ放流ができると良いのではないか。ゲートのあける順番があるのか。(学識者)
- ・順番が決まっている。(三浦課長)
- ・左岸側は、工事前はもっと下流側 40～50m くらいまで水域があった。定期的に土砂を除去してもらう等の環境対策が必要なのではないか。(団体)
- ・自然環境を維持・改善するためのルールがないことが問題だと思う。(団体)

1 開会

2 あいさつ 【利根川上流河川事務所】

利根大堰の上下流区間で掘削をするにあたっては、この区間における現状の環境をしっかりと把握し、どのような状態を保全・創出しながら掘削することが適切なのかを検討し、必要な説明・情報共有をしていくことが大事であり、そこにこの「検討会」の役割があると認識している。

掘削については、他の区間で実施する堤防整備で盛土の材料として使うことや、コウノトリの採餌環境になることなど、色々なことを考えなくてはいけない。また、どれほどの量の掘削をするときにはどのように掘削をするかということもあらかじめ準備していく必要があると考えている。

いずれにしても、これまでの経緯がある中で、皆様からしっかり意見を頂き情報を共有する中で、今すぐ掘削できるかどうかは申し上げられないが、掘削をする場面でしっかりとそれらが活かし反映されていくようにしていきたいと思うので、よろしく願いたい。

3 議事

(1) 現地確認会での確認事項について

現地確認会での確認事項について、参加していないメンバーも含め以下、共有を行った。

- ・コロナの関係で2年間、「検討会」が開催できなかった中、環境団体の皆さんから現場を確認したいとの強いご意見があり、昨年5月30日に現場確認と意見交換を行った。
- ・「下流域ゾーン」については、一回掘削をしたが「だるま池」を除いては乾いている状況のため改めて掘削してはどうか、というご意見もあったが、今後の掘削予定場所を対象に「だるま池」やこれまでの掘削条件や水位状況などを参考にして、今後コウノトリの採餌環境に適した湿地整備を行うということが、「下流域ゾーン」の課題。
- ・「中流域ゾーン」の「たまり池」も3年ほど前に一度改善試掘を行ったが、春先に乾いている状況にあるため、今後の本格的な掘削にあわせ、「たまり池」の掘削等により、以前のような常時水面があり [] を始めとした動植物が豊かだった環境を取り戻していくかが課題。
- ・「上流域ゾーン」の砂礫河原については、大堰のゲート操作によるフラッシュ放流が難しいという現状があり、人の侵入を抑え、かつての砂礫河原の指標となる動植物を通じて、どう取り戻せるか推移を見ていくことが課題。
- ・「大堰上流左岸」については、開放水域が小さくなっていることから、今後の掘削予定地との兼ね合いの中で、上流側エリアの開放水域についても望ましい湿地整備のあり方の再検討が課題。

<主な意見等>

現地確認会報告に関して、特に意見等はなかった。

（２）令和４年度の利根大堰上下流の調査結果（中間）と経年状況について

<主な意見等>

- この「検討会」はそもそも治水と環境の両方を、利根大堰周辺の河川整備事業の中で一体的にどう具体化するかという主旨で始まっている。環境面については、土砂採取に伴って左岸側で乾燥化がさらに進み水域条件が悪化したこと、また掘削した湿地にオフロード車等が侵入して水域環境が荒廃するという、２点の大きな課題があった。２つ目の侵入防止について、従来から川俣出張所にはご尽力頂いているが、去年の今頃に「たまり池」に車両の再進入があり水域が踏み荒らされたのを受け、「資料２」で説明があった位置に今回新たに侵入防止柵を作って頂いた。川岸だと流されやすかったが、今回は川岸に至る侵入場所に防止柵を作って頂いて一定の効果が期待できるのではないかなと思われる。（コーディネーター）
- 令和４年度まで３年連続で掘削工事が無かったと認識しているが、令和５年度の湿地整備の工事予定はいかがか？（団体）
- 現時点では掘削予定はない。その機会を窺いながら積極的に掘削できるよう堤防工事を進めたい。掘削する際には皆さんにこういった形で掘削をしたいかをお示しして、意見を伺いたいと考えている。（事務局）
- ５年度も掘削工事予定がないとなると、４年連続で湿地整備が行われないことになる。治水も環境対策も共存して進めることが、この「検討会」の趣意書にも書いてある。前の河川事務所担当者は、治水工事の予算でも知恵を絞ってうまく活用すれば環境にも使うことができるという話があった。予算が厳しいことはわかるが、今は治水のみに偏重しているので、うまく知恵を使ってもっと環境重視にできないか。４年もないというのは偏重していると思えない。下流から工事が進んでいるとのことだが、いつになったら湿地整備の工事が再開できるのか、利根大堰上下流における湿地整備の見通しをぜひ示してほしい。書面で示してもらえれば、我々も確認ができ見通しがつくので、ぜひ河川事務所をお願いしたい。（団体）
- 我々も見通しを示せるなら示したいのが正直なところだが、現実には中々難しい。計画性をもって示していけたらと思うが、国も予算は厳しいので環境目的単独での掘削に予算がつくことは今はない。渡良瀬遊水地でも同様だが、１つの工事で２つも３つもメリットがあるという中で予算が認められる、という形で進めてきている。埼玉県側での堤防強化が下流側から半分ほどまで進んできている中で、その堤防盛土に使う土を地産地消で利根大堰周辺から効率的に採取することになるが、それがいつになるかということ。（地産地消での河川敷掘削と堤防盛土を）やりたいと思うし、やらないといけないとは思っている。辛抱強く見て頂ければと思う。（事務局）
- タイミングを工夫してできるだけ早めに行いたいということなので、事務所としてもご努力頂ければと思う。（コーディネーター）
- 治水上でどこが危ないかということと、環境とをうまくあわせるには、どういう方法があるのか知恵を出さなければいけないと思う。この辺りは河川断面が十分なのか、足りないという話はないのか。（学識者）
- 川俣付近は、河川の断面が十分にあるということではない。（事務局）
- 治水上は樹林化しないようにということもあり、木だけでなく植生が生えてしまうと、どんどん河川敷が高くなってしまう。土砂が溜まると断面が狭くなり、狭くなると流れが埼玉県側に影響する。埼玉県側の堤防が足りないことは左岸側の断面が広くなればよいということもある。いいかどうかは別だが、利根下流では今冬からヨシ焼きを行う。ヨシ焼きでもオギ焼きでも良いし、冬なので動物には影響は余りないが、ここの植物量を減らすことを考えてみるということもあるように思う。知恵の出どころではないかと思うが、いかがか。（学識者）

- 私は55年前、大堰ができる前から、この辺りで鳥を中心に自然環境の調査をしている。今でも年間150回位は利根大堰周辺に調査で来ている。当時は昭和橋の上下流に礫の砂州がいくつもあり、 や などがコロニーを作って繁殖していたが、砂礫に土砂が溜まり繁殖できなくなった。上流に大堰ができたので、どうしても土砂が溜まりやすくなり、わずか数十年の間に変わってきている。現在もどんどん泥が溜まり河川敷が乾いてきている。工事が大変なことも分かるし治水も利水も大事だが、山からの全体的な環境を整えてこそ治水・利水もできると思う。荒上の会議でも毎回言っているが、秩父の山の環境が荒れることで土砂が流れ出しているので、上流の森林を大事にするということが重要。(団体)
- さんの話は、まさに上流域から下流域まであるいは堤内・堤外一貫して取組まなければいけないという「流域治水」の話だったと思う。50年前からの、ここの環境本来のあり方の話もあった。 先生からは、植物の繁茂による治水上の意味合いや、現場でも指摘があったが堤内地の水田と河川区域の水位との関わり、大堰の上流側の水位の高さと下流をあわせられないか等、いくつかご意見を頂いた。ただ、今後の取組については今日の時点では議論を深める段階ではないので意見として伺っておき、次回以降の掘削段階を視野に入れて、更に詰めた議論をできればと思う。(コーディネーター)

(3) 利根大堰の耐震化工事に係る水鳥調査結果および 調査について

利根導水総合事業所より「資料3」および「資料4」について説明を行った上で、意見交換が行われた。

<主な意見等>

- 台船の運行とカモ類との関係は、報告にあった通りだったと思う。月3回の調査を実施したことが良かった。(団体)
- が確認されていた左岸のゲートを開けることは、出来ないということだった。左岸側の掘削工事の予定も当面ない中で、土砂が溜まって干上がってきているのを回避できるのかということがある。治水と環境を両立させるために、将来の予定をぜひ書面で示してほしい。あと、水路を持ってくるなど、知恵を絞って掘削とあわせて湿地の再生を何とかできないかと思う。(団体)
- さんからも話のあった大堰ゲートによるフラッシュ放流については、「検討会」当初からの話だが、操作基準などもあり多分ここだけの話ではないと思う。「水利権」も以前は厳しい規定があり環境の目的では使えなかったが、ある段階から「環境用水」として位置づけられたということもある。オールジャパンの課題となると思うので、環境の概念をどううまく入れて操作運用をするか、ルール化するかということは、大きな課題として全体として考えていけたらと思う。水鳥や の報告があったが、こうした結果を見て、何を持って影響の有る無しを判断するのが重要となる。水鳥については、台船の運用が開始された初年目に水鳥の数が減るということがあったが、この辺り一帯として見た時に、また経年的に見た時には、影響は生じていないのではないかとのこと。 については、群馬県でのレッドデータ種であり、ここが非常に重要な産卵場所になっている中で工事が入ったため、影響が懸念されたが、経年変化として全体の数量を見ることで悪影響という程ではなかったのではないかと、との報告だったと思う。(コーディネーター)

<その他全体意見>

- 元々、「下流域ゾーン」はコウノトリの生息適地を目指した湿地を整備することで合意されていた。堤防工事の土砂採取の関係でしばらく掘削工事が行われないということだったが、コウノトリの採餌などの環境のための工事は行われないのかを改めて確認したい。「渡良瀬エコネッ

ト」に、この会議も参加して知見を活かしたらどうかという意見も出したが、その検討はどうなっているのか伺いたい。(団体)

- 工事については、堤防工事とあわせその機会を窺いながら掘りたいと考えている。また、コウノトリやカエル等に留意した浅い池や深い池や形状など環境に配慮した工事をしていきたいと考えている。エコネットについては、事務局は「渡良瀬エコネット」の担当でもあり、■■■■先生や■■■■先生も委員であるので、エコネットの知見を利根大堰でも活かして進めていきたいと考えている。(事務局)
- 掘削に関してだが、今までの下流域での掘削での状況は、中上流側の湿地整備に生かしていくということだったが、3年後、4年後の状況を考えたかなり規模の大きな掘削にしないと、水が出るとすぐに埋まってしまう湿地の再生は難しいと思うので、これまでの状況をよく考えて工事の検討が出来たらと思う。よろしく願いたい。(団体)
- 大堰周辺の湿地再生に関しては、折角いい環境になったところを二度掘りしてしまった失敗があり、過去の反省を踏まえてこの「検討会」では検討が進められている。繰り返しになるが、今後の見通しを示せる資料の提示についても課題として、ぜひ検討をお願いしたい。(団体)
- 盛土の需要と掘削のニーズがマッチするタイミングが、いずれ訪れると思っている。その時に、掘削する量と環境の創り方を良く一致させられるようにすることも考え、掘削量にあわせてどこをどう掘るのか、ということを皆さんのご意見を伺いながら準備しておけたらと思う。(事務局)
- これまでの様々な取組みを踏まえて、築堤工事に伴い掘削となったらどうするか、ということである。「たまり池」はあくまで試掘だったがそういうことでなく、今後の土砂採取に伴う本格的な湿地整備に生かしていくことが重要だと思う。(コーディネーター)

4 閉会

以上